

仲島本間尺遺跡3

仲島本間尺遺跡3

—第2・3次調査—

大野城市文化財調査報告書 第201集



大野城市文化財調査報告書
第201集

大野城市教育委員会

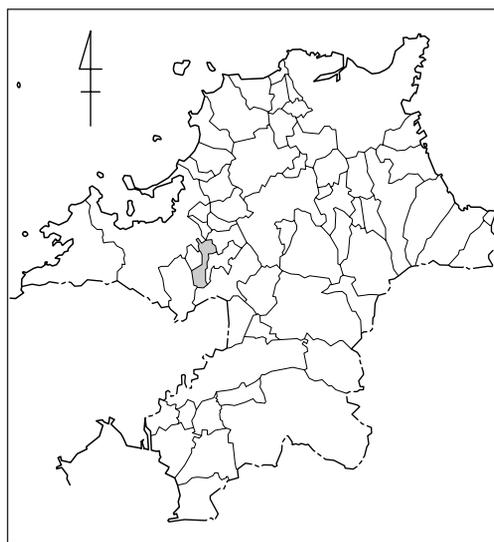
2022

大野城市教育委員会

なか しま ほん げん じゃく
仲島本間尺遺跡 3

—第2・3次調査—

大野城市文化財調査報告書 第201集



2022

大野城市教育委員会

序

大野城市は福岡平野の南部に位置しており、市域は南北に細長いひょうたん形をしています。市の東部には四王寺山とそれに連なる山脈があり、特別史跡大野城跡が立地しています。また、市中央部は御笠川が北流しその流域にそって平地が形成されており、太宰府市との境に特別史跡水城跡があります。さらに、南部には牛頸山を含む山間地があり、史跡牛頸須恵器窯跡が所在するなど、自然と歴史に恵まれた街です。

今回報告するのは、公共事業に伴い実施した仲島本間尺遺跡第2・3次発掘調査の成果です。仲島本間尺遺跡は市の北部にあり、貨布や人面墨書土器などが出土した仲島遺跡の近くに所在する遺跡です。今回の調査によって弥生時代のはじめ頃の人々の活動の痕跡が確認されました。近隣遺跡も含めて本遺跡の性格を考える上で重要な調査成果といえます。本報告書により発掘調査の成果が広く世に知られ、当地域の歴史の一端が明らかになることを願っております。

最後に、発掘調査に際してご理解、ご協力をいただいた関係各位、また多くのご指導を賜りました皆様に厚くお礼を申し上げます。

令和4年3月31日

大野城市教育委員会
教育長 伊藤 啓二

例 言

1. 本書は大野城市仲畑1丁目に所在する仲島本間尺遺跡第2次調査および第3次調査成果についての報告である。
2. 書名を『仲島本間尺遺跡3』とした経緯について若干の説明をしておく。本遺跡に関しては、南に近接して位置する仲島遺跡との関係が当初不明であり、仲島周辺遺跡あるいは仲島北遺跡とされてきたという経緯がある。そのため、仲島本間尺遺跡第1次調査と第2次調査の間に仲島北遺跡として調査された調査区がある。この調査区の報告が2017年に『花園遺跡1 仲島本間尺遺跡2』（大野城市文化財調査報告書第151集）として報告されている。このような経緯があり、本書は第2・3次調査成果の報告であるが書名中の巻数が『仲島本間尺遺跡3』となった。上記経緯の詳細については前掲『花園遺跡1 仲島本間尺遺跡2』を参照されたい。
3. 発掘調査は徳本洋一が担当した。
4. 遺構写真は徳本が撮影した。遺構図は徳本が作成した。
5. 遺物写真は写測エンジニアリング株式会社に委託し、牛嶋茂が撮影した。
6. 遺物実測は小嶋のり子、古賀栄子、松本友里江が行った。
7. 製図は小嶋が行った。
8. 観察表は小嶋が作成・編集した。
9. 遺物番号は通し番号とし、挿図と図版で統一した。
10. 本書に掲載した遺跡分布図は国土地理院発行の1/25,000地形図『福岡南部』を基に作成した。
11. 出土遺物、調査実測図・写真等の資料は大野城市教育委員会で保管している。
12. 本書の執筆は石川健が行い、編集は上田龍児の協力のもと石川が行った。

本文目次

I. はじめに	1
1. 調査にいたる経緯	1
2. 調査体制	1
II. 位置と環境	3
III. 第2次調査の成果	5
1. 調査概要	5
2. 遺構と遺物	5
IV. 第3次調査の成果	13
1. 調査概要	13
2. 遺構と遺物	13
V. まとめ	16

挿図目次

第1図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)	4
第2図 仲島本間尺遺跡 第2・3次調査区位置図 (1/2,500)	6
第3図 仲島本間尺遺跡 第2次調査区遺構配置図 (1/200)	7
第4図 SD01・SD02出土遺物実測図 (4は1/6、5は2/3、他は1/3)	8
第5図 SD10出土遺物実測図 (1/3)	10
第6図 SD11出土遺物実測図 (13は1/2、他は1/3)	11
第7図 包含層他出土遺物実測図 (17は2/3、他は1/3)	12
第8図 仲島本間尺遺跡 第3次調査区遺構配置図 (1/200)	13
第9図 SD01・SD02出土遺物実測図 (1/3)	14
第10図 ピットおよび包含層出土遺物実測図 (32は1/2、他は1/3)	15

表目次

仲島本間尺遺跡第2次調査出土遺物観察表	17
仲島本間尺遺跡第3次調査出土遺物観察表	18

図 版 目 次

- | | | |
|----------|--------------------|-------------------|
| 図版 1 | (1) 2次調査 2区全景 | (5) 6区全景 |
| | (2) 3区全景 SD01北側 | (6) 7区全景 SD02 |
| | (3) 4区全景 | (7) 8区全景 |
| | (4) 5区全景 | (8) 9区全景 |
| 図版 2 | (1) 2次調査10区全景 | (5) 13B区全景 |
| | (2) 11区全景 | (6) 14区全景 |
| | (3) 12区全景 | (7) 15区全景 |
| | (4) 13A区全景 | (8) 16区全景 |
| 図版 3 | (1) 2次調査17区全景 SD09 | (5) 20区全景 SD11 |
| | (2) 18区全景 | (6) 3次調査 4区全景 |
| | (3) 19区全景 | (7) 5区全景 |
| | (4) 19区 SD10、P1 | (8) 6区全景 SD01 |
| 図版 4 | (1) 3次調査 7区全景 | (5) 16区全景 |
| | (2) 8区全景 | (6) 17区全景 SD02、P2 |
| | (3) 10区全景 | (7) 18区全景 |
| | (4) 13区全景 | (8) 19区全景 |
| 図版 5 - 6 | 出土遺物 | |

II. 位置と環境

大野城市は福岡平野の南に位置し、南北に細長く中央部でくびれた形をしている。地形は北東部に三郡山塊周縁部の井野山、乙金山、四王寺山が連なる。また、三郡山塊・宝満山を源とする御笠川が市域中央部を北西に流れ牛頸川と合流し、その後福岡市で諸岡川と合流して博多湾に注ぐ。この諸岡川と御笠川に挟まれた沖積平野の東部に仲島本間尺遺跡は位置する。標高は約11.5mである。

遺跡周辺の様相をみると、旧石器時代は乙金山・四王寺山麓で松葉園遺跡、薬師の森遺跡、原口遺跡、雉子ヶ尾遺跡、釜蓋原遺跡が確認され、牛頸山から派生する丘陵上の遺跡でもナイフ形石器や細石刃が出土する。

縄文時代草創期の遺跡は市内で確認されていないが、近隣の春日市門田遺跡で爪形文土器が出土している。早期には乙金山・四王寺山麓の薬師の森遺跡、雉子ヶ尾遺跡、釜蓋原遺跡等で押型文土器が出土するほか、石勺遺跡など市南部の平野微高地上にも遺跡が分布する。後期から晩期には牛頸山から派生する丘陵上の遺跡で竪穴住居が調査されており、乙金山・四王寺山麓の善一田遺跡、原口遺跡、薬師の森遺跡などでも遺物が確認されている。

弥生時代には市東部の御陵前ノ椽遺跡や塚口遺跡、中・寺尾遺跡で前期の甕棺墓・土坑墓・木棺墓が調査されており、市南部丘陵地でも前期後半の墓地が調査されている。集落跡は川原遺跡や薬師の森遺跡、御陵遺跡などで確認されている。前期末頃には仲島遺跡はじめ石勺遺跡、ヒケシマ遺跡など平野部で集落遺跡が増加する。これらの遺跡は中期を通じて営まれるが、中・寺尾遺跡、森園遺跡や瑞穂遺跡などでも集落や墓地が形成される。後期は平野部の仲島遺跡や石勺遺跡、村下遺跡で集落が営まれるほか、中・寺尾遺跡、森園遺跡や松葉園遺跡などが認められる。

古墳時代には福岡平野や那珂川流域を中心に首長墓級の前方後円墳が分布する。市域では明確な前方後円墳は確認されていないが、御陵古墳群で小円墳群が築かれる。集落は仲島遺跡や石勺遺跡、村下遺跡などの弥生時代後期以来の遺跡に加え、瑞穂遺跡、原ノ畑遺跡で確認される。中期は5世紀前半の笹原古墳の築造後、5世紀後半には古野古墳群等で群集墳の形成が始まる。集落遺跡は仲島遺跡、石勺遺跡、中・寺尾遺跡、森園遺跡等で確認されている。後期になると周辺地域では6世紀中頃までは前方後円墳がみられるが6世紀後半以降は小円墳を中心とした群集墳が急増する。市域でも月隈丘陵から乙金山山麓に位置する善一田古墳群、王城山古墳群などが築造される。集落は仲島遺跡の他乙金山・四王寺山麓の薬師の森遺跡などで確認されている。このうち仲島遺跡は、集落規模が大きく多数の掘立柱建物が確認されており拠点的な集落と考えられる。また、6世紀中頃以降は牛頸窯跡群で須恵器生産が行われるが、乙金山・四王寺山麓の乙金窯跡・雉子ヶ尾窯跡でも須恵器生産が始まり、薬師の森遺跡では鉄器や須恵器生産に関わる集落が形成される。

飛鳥・奈良時代に入ると、大宰府が成立し水城東門からのびる官道の側溝が井相田C遺跡で検出されている。また、この井相田C遺跡に隣接する仲島遺跡、および市中央部の原ノ畑遺跡等で集落が営まれる。このうち仲島遺跡では九州では出土例が少ない人面墨書土器が3個出土し、馬の頭骨などが多数出土している。



福岡市

- 1. 持田ヶ浦古墳群A群
- 2. 持田ヶ浦古墳群B群
- 3. 持田ヶ浦古墳群C群
- 4. 持田ヶ浦古墳群D群
- 5. 持田ヶ浦古墳群E群
- 6. 持田ヶ浦古墳群F群
- 7. 今里不動古墳
- 8. 堤ヶ浦古墳群
- 9. 影ヶ浦遺跡
- 10. 金隈遺跡群
- 11. 井相田B遺跡群
- 12. 井相田D遺跡群
- 13. 井相田C遺跡群
- 14. 麦野A遺跡
- 15. 麦野C遺跡
- 16. 南八幡遺跡群
- 17. 雑餉隈遺跡群

大野城市

- 18. 唐山古墳群

19. 乙金北古墳群

- 20. 唐山遺跡
- 21. 御陵古墳群
- 22. 御陵脇遺跡
- 23. 塚口遺跡
- 24. 御陵前ノ椽遺跡
- 25. 善一田遺跡・古墳群
- 26. 王城山遺跡・古墳群
- 27. 古野遺跡・古墳群
- 28. 原口遺跡・古墳群
- 29. 乙金窯跡群
- 30. 此岡古墳群
- 31. 松葉園遺跡
- 32. 森園遺跡
- 33. ヒケシマ遺跡
- 34. 中・寺尾遺跡
- 35. 花園遺跡
- 36. 薬師の森遺跡
- 37. 銀山遺跡
- 38. 原門遺跡

39. 雉子ヶ尾遺跡

- 40. 雉子ヶ尾窯跡
- 41. 雉子ヶ尾古墳
- 42. 釜蓋原古墳群
- 43. 笹原古墳
- 44. 金山遺跡
- 45. 釜蓋原遺跡
- 46. 仲島遺跡
- 47. 仲島本間尺遺跡
- 48. 川原遺跡
- 49. 御笠の森遺跡
- 50. 村下遺跡
- 51. 宝松遺跡
- 52. 雑餉隈遺跡
- 53. 石勺遺跡
- 54. 原ノ畑遺跡
- 55. 後原遺跡
- 56. 御供田遺跡
- 57. 瑞穂遺跡
- 58. 国分田遺跡

59. 古賀遺跡

太宰府市

- 60. 成屋形遺跡群
- 61. 成屋形古墳群
- 62. 裏ノ田窯跡
- 63. 裏ノ田古墳
- 64. 裏ノ田遺跡

春日市

- 65. 駿河A遺跡
- 66. 駿河B遺跡
- 67. 駿河D遺跡
- 68. 駿河E遺跡
- 69. 原ノ口遺跡
- 70. 先ノ原遺跡
- 71. 立石遺跡
- 72. 先ノ原春日公園内遺跡

第1図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)

Ⅲ. 第2次調査の成果

1. 調査概要

仲島本間尺遺跡第2次調査地点は大野城市仲畑1丁目443番地に所在し、調査面積は290㎡を測る。諸岡川と御笠川に挟まれた沖積平野に位置し、現地表面の標高は11.5mである。

調査の結果、溝13条とピット5基が検出されたが、いずれも削平を受けており残存状態は悪かった。調査地点の北西部分では北西-南東方向に溝が流れ、調査区南東部では北東-南西方向に溝が検出された。これらの溝の一部は弥生時代と古墳時代後期に比定される。

2. 遺構と遺物

(1) 溝

SD01 (第3図、図版1)

第2次調査区内の北西部で検出された。調査区東壁付近でやや蛇行するが略北西-南東方向にのび、南東方向にやや低くなる。上端幅35~80cm、深さ24cmの規模である。調査区内での長さは6mである。出土遺物については、図示した須恵器・土師器のほかに土師器小片が出土している。

出土遺物 (第4図、図版5)

須恵器 (1) 1は須恵器杯Hの身である。体部は丸みを持って立ち上がり口縁部は内傾する。端部内面に段はなく、丸くおさめる。外面底部は回転ヘラ切り後回転ヘラケズリ、体部は回転ナデ、内面には当て具痕が残る。口径は11.2cm、受け部径13.5cm、器高は4.8cmである。

土師器 (2・3) 2は甕である。胴部が張る形態で、口縁部は短く外反する。器壁は薄く堅緻に焼成されている。胴部外面に部分的に被熱痕がみられる。復元口径は14.2cmである。3は甗である。底部は単孔で、口縁部にむかって砲弾状に立ち上がり、胴部中位に把手がつく。外面は把手から上はヨコ方向、下半はタテ方向のナデ、内面はケズリの後ナデである。口径は24.1cm、器高21.0cmである。

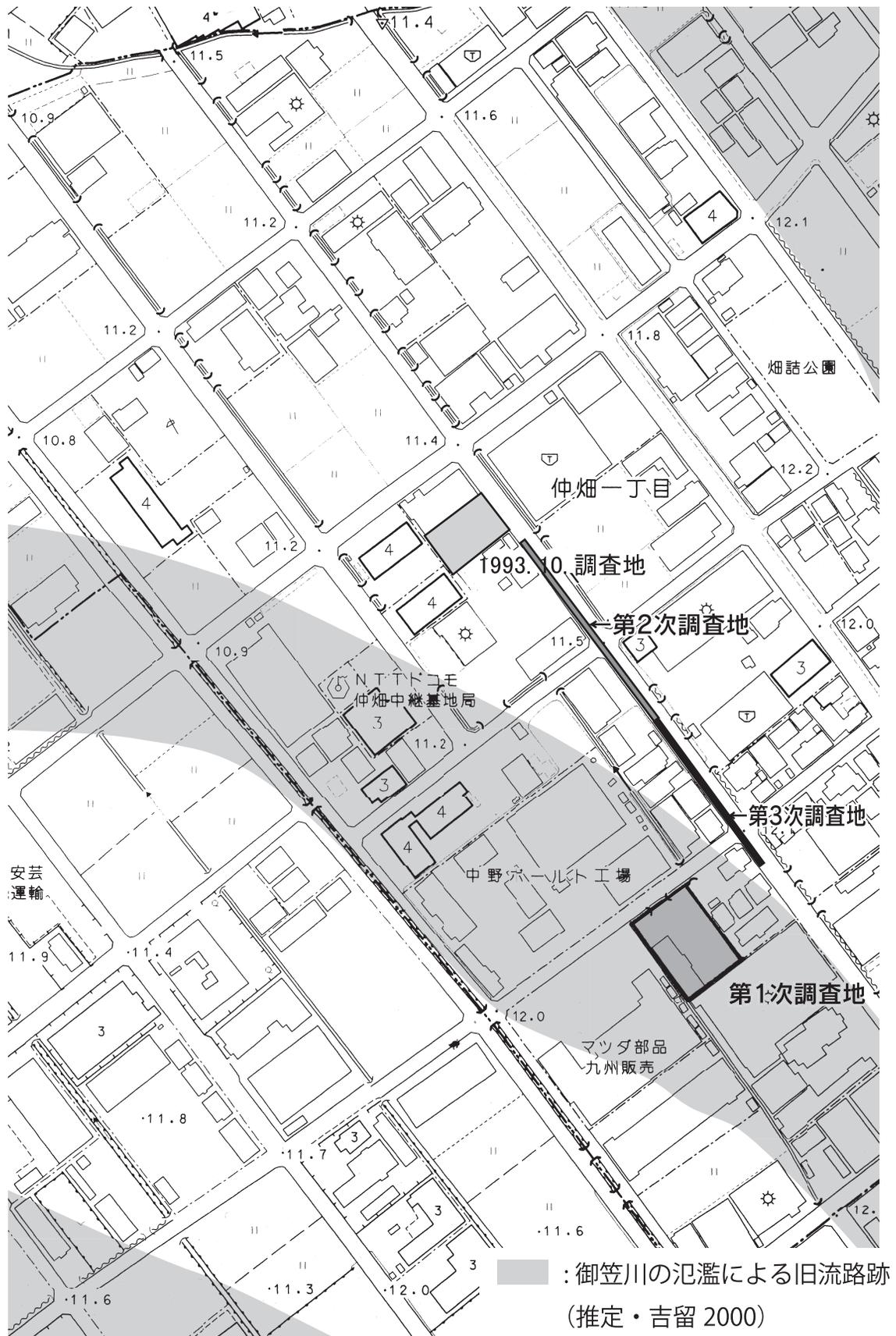
SD02 (第3図、図版1)

第2次調査区・北西部、SD01の南側に位置し、やや蛇行するもののSD01と並走するような方向でのび、南東方向に向かってやや傾斜する。上端幅70~125cm、深さ36cmの規模である。調査区内での長さは12.9mである。出土遺物については、図示した須恵器、石器のほかに、弥生土器の小片や黒曜石・サヌカイト片などが出土している。

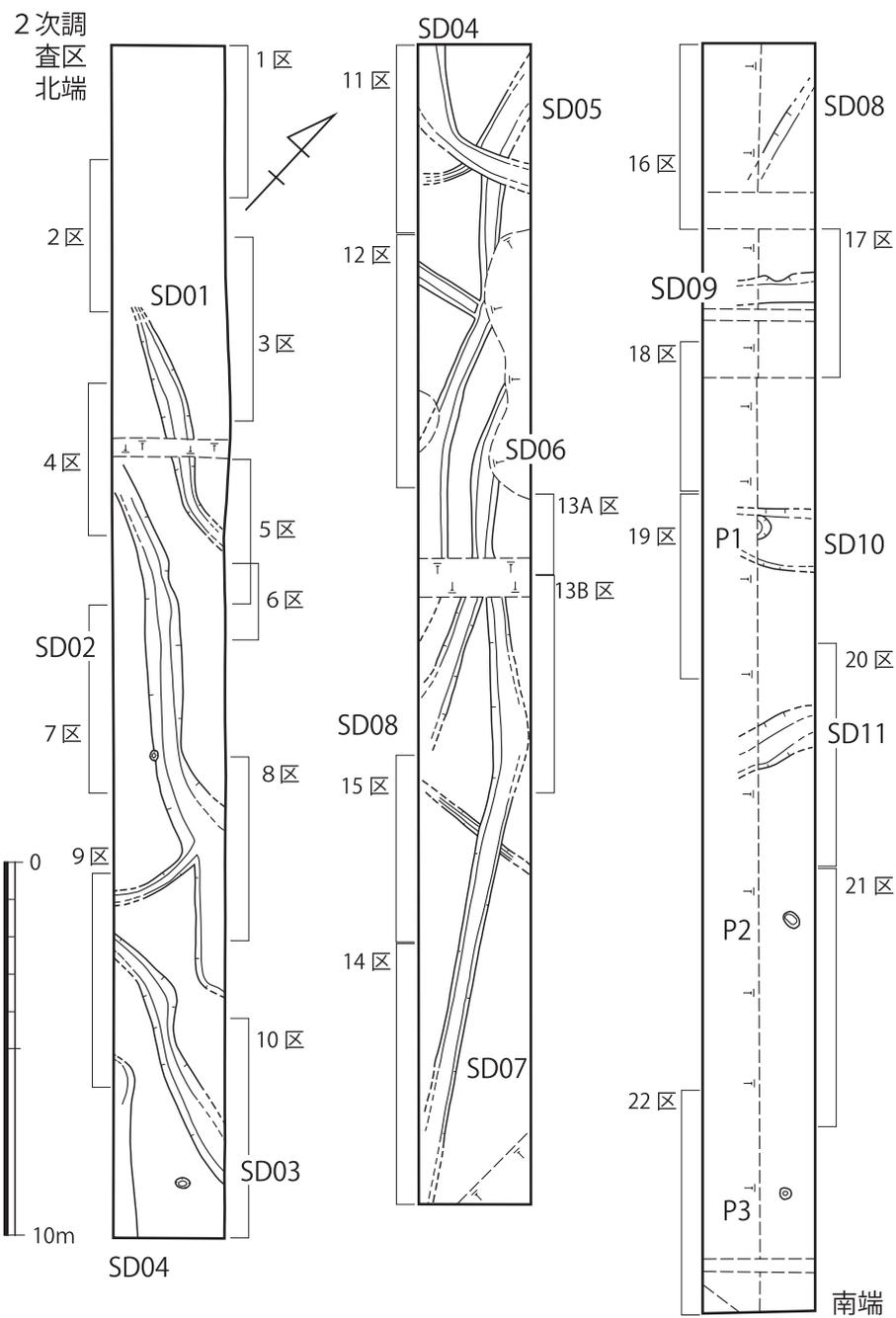
出土遺物 (第4図、図版5)

須恵器 (4) 4は大甕の胴部片である。外面は擬格子タタキ、内面は同心円当て具痕が残る。破片の中位には当て具痕の後ヨコ方向のナデが幅3cmほどの範囲でめぐる。残存高は14.8cmである。

石製品 (5) 5は黒曜石製の石鏃である。先端部を欠損するが、基部の挟りが浅い凹基式である。残存長1.7cm、最大幅1.4cm、最大厚0.3cmである。



第2図 仲島本間尺遺跡 第2・3次調査区位置図 (1/2,500)

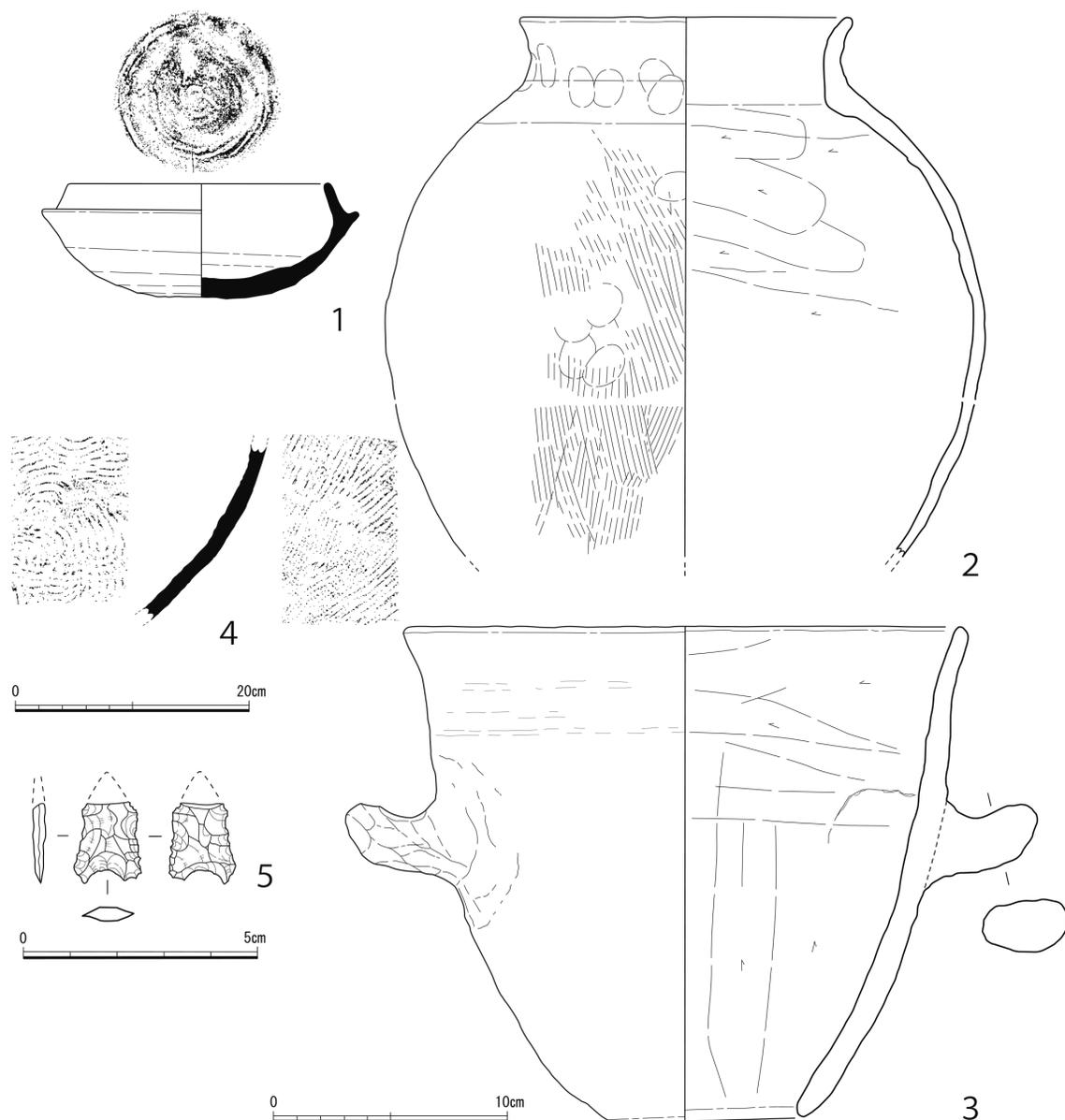


第3図 仲島本間尺遺跡 第2次調査区遺構配置図 (1/200)

SD03 (第3図)

第2次調査区・北西部、SD02の南東側に位置する。SD01やSD02とほぼ並走するような方向にのび、これらの溝と同様に南東側へわずかに傾斜する。上端幅60～90cm、深さ30cmの規模である。調査区内での長さは5.5mである。

出土遺物については、図化に耐えないが弥生土器の壺底部小片のほか、須恵器小片や黒曜石片などが出土している。



第4図 SD01・SD02出土遺物実測図（4は1/6、5は2/3、他は1/3）

SD04（第3図）

第2次調査区・SD03の南東側に位置する。調査区西壁沿いに北西—南東方向にのびるが、南部分は略東西方向におれる。溝底面のレベルは起伏があるものの、東西両端部でほとんどかわりがない。上端幅75～110cm、深さ12～33cmの規模である。調査区内での長さは8.9mである。

出土遺物については、弥生土器片および黒曜石片が出土している。小片のため図示していない。

SD05（第3図）

第2次調査区の中央部をやや蛇行しながら調査区を斜めに横切るように略北西—南東方向にのびる。溝底面のレベルは、北西端と南東端でほとんどかわりがない。上端幅60～90cm、深さ27cmの規模である。調査区内での長さは12.5mである。

出土遺物については、弥生土器小片および黒曜石片が出土している。小片のため図示していない。

SD06 (第3図)

第2次調査区の中央部に位置し、SD05と並走して略北西—南東方向にのびるが、南側はかく乱により不明である。かく乱の南側では後述のSD07およびSD08が位置しているが、これらの溝との関係は不明である。底面のレベルから南東方向に向かって傾斜する。上端幅60～80cm、深さ28cmの規模である。調査区内での長さは4.7mである。

出土遺物については、図化に耐えないが土師器小片が出土している。

SD07 (第3図)

SD06の南東に位置し、調査区東壁に向かってのびた後にやや南へおれ、南東方向にのびる。溝底面は、検出範囲中央部のやや幅広になる部分で深くなるものの、北西から南東方向へ傾斜する。上端幅60～70cm、深さ24cmの規模である。調査区内での長さは15.0mである。

出土遺物については黒曜石チップが出土している。

SD08 (第3図)

SD06の南東に位置し、調査区西壁に向かってのびる。底面のレベルから、南東方向へ傾斜する。上端幅60～70cm、深さ35～42cmの規模である。調査区内での長さは3.3mである。

実測可能な資料はないが、土器小片が出土している。

SD09 (第3図、図版3)

調査区やや南側に位置し、調査区をほぼ横断するように検出されている。溝底面のレベルから南西へ向かってやや低くなるようであるが、検出範囲が狭くかつ遺構の中央部がかく乱で消失しているため定かではない。上端幅はかく乱のため不明であるが、深さ10cmの規模である。調査区内での長さは1.5mである。

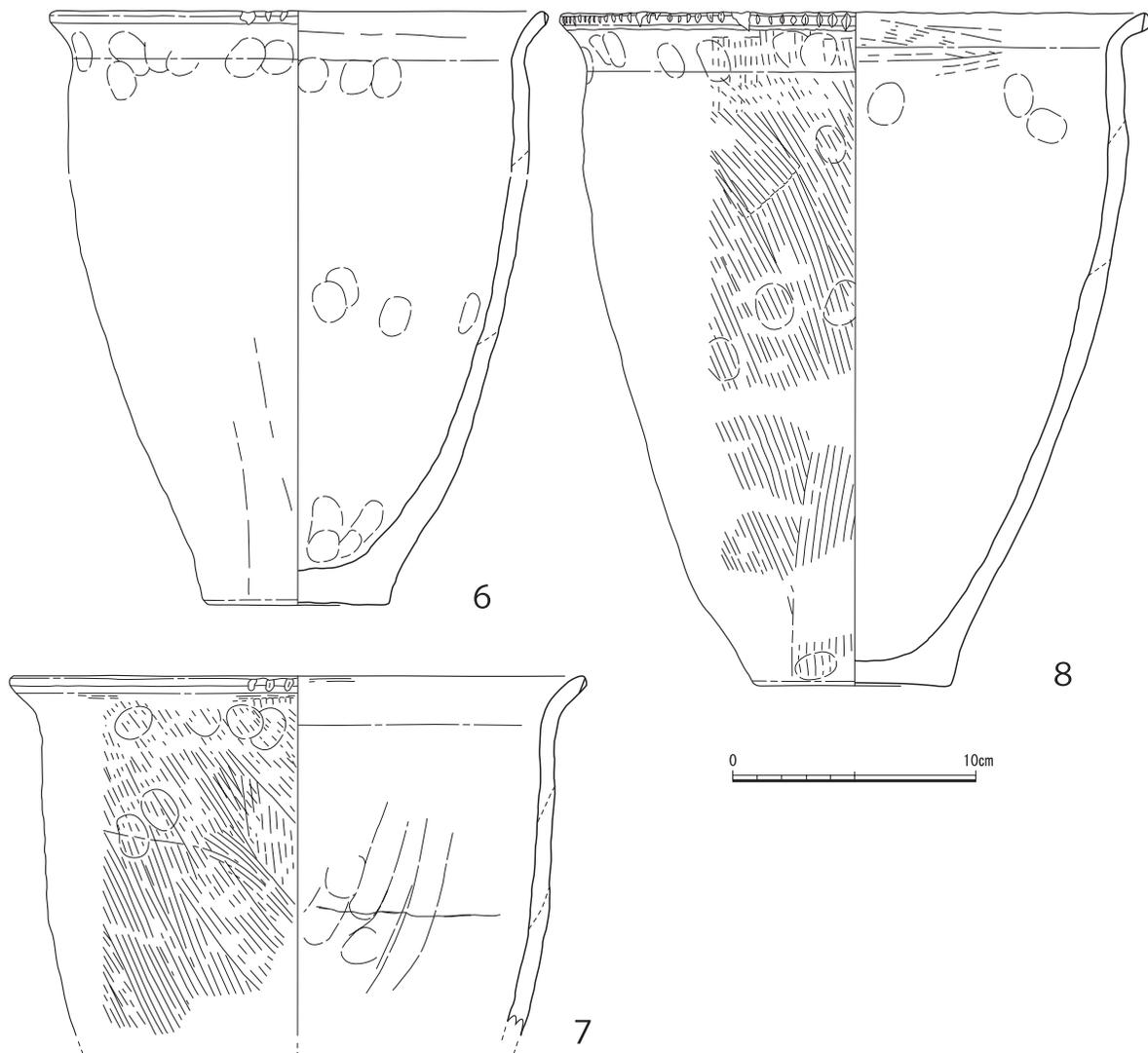
出土遺物については、小片のため図化できなかつたが弥生土器の甕や壺片が出土している。

SD10 (第3図、図版3)

調査区やや南側に位置し、調査区をほぼ横断するように検出されている。西側はすでに消失しており、検出できた範囲は1mに満たない。底面のレベルから南西方向へ低くなる。上端幅80cm、深さ14～21cmの規模である。調査区内での長さは0.8mである。出土遺物については、図示したもののほかに壺の小片や黒曜石細片が出土している。

出土遺物 (第5図、図版5)

弥生土器 (6～8) 6は甕で、口縁部は如意形を呈する。口縁部の残存部分が限られており、なおかつ器面が劣化しているため不明瞭であるが、口縁端部に浅い刻目をめぐらす。外面はナデ、内面は丁寧なナデで仕上げる。口径20.4cm、器高24.2cmに復元でき、底径は7.6cmである。7も甕で、如意形口縁の端部下端に刻目が施される。外面はタテあるいは斜方向のハケメ、内面はユビ押しえ後ナデで仕上げる。胴部中位に粘土紐の継ぎ目が残る。復元口径は23.7cmである。8も6や7と略同様の器形で、如意形の口縁端部に刻目を施す甕である。外面は斜方向あるいはタテ方向のハケメ、内面も口縁部内面にハケメが一部残存するが、他はほぼ不定方向のナデで仕上げる。口径24.2cm、器高27.4cm、底径8.0cmである。



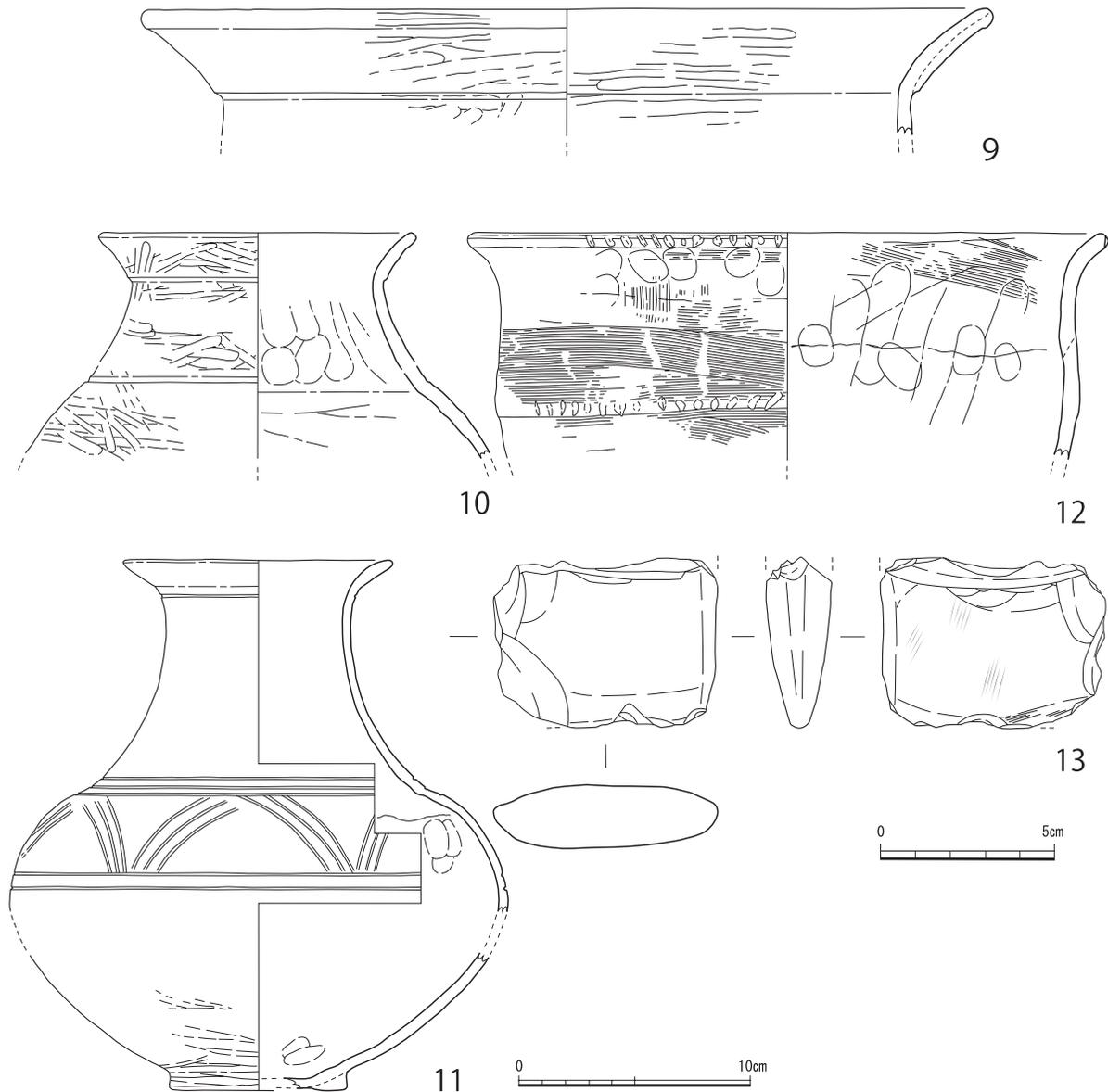
第5図 SD10出土遺物実測図 (1/3)

SD11 (第3図、図版3)

調査区南側、SD10のさらに東南方向に位置している。調査区内西側はすでに消失しており、略北東—南西方向にのび、底面のレベルから北東方向が若干低くなる。上端幅110cm、深さ29cmの規模である。調査区内での長さは1.1mである。出土遺物については、図示したもののほかに、黒曜石片が出土している。

出土遺物 (第6図、図版5)

弥生土器 (9~12) 9は大型の壺である。外傾する口縁部が粘土貼付けによって肥厚し、頸部との境に段をなす。器面の劣化が激しいが内外面ともミガキである。復元口径は36.8cmである。10は壺で、胴部と頸部の境に浅い凹線状の段がめぐり内傾する頸部に外反する口縁部がつく。口縁部は粘土貼付けにより肥厚し、頸部との境は段を形成する。外面はヘラミガキ、内面はナデである。口径は13.7cmに復元できる。11はやや扁平に張る胴部で口縁部は外反する壺である。口縁部はやや厚みがあり、口縁部と頸部の境に沈線が1条めぐる。胴部上半部に3条と2条の沈線で文様帯が区



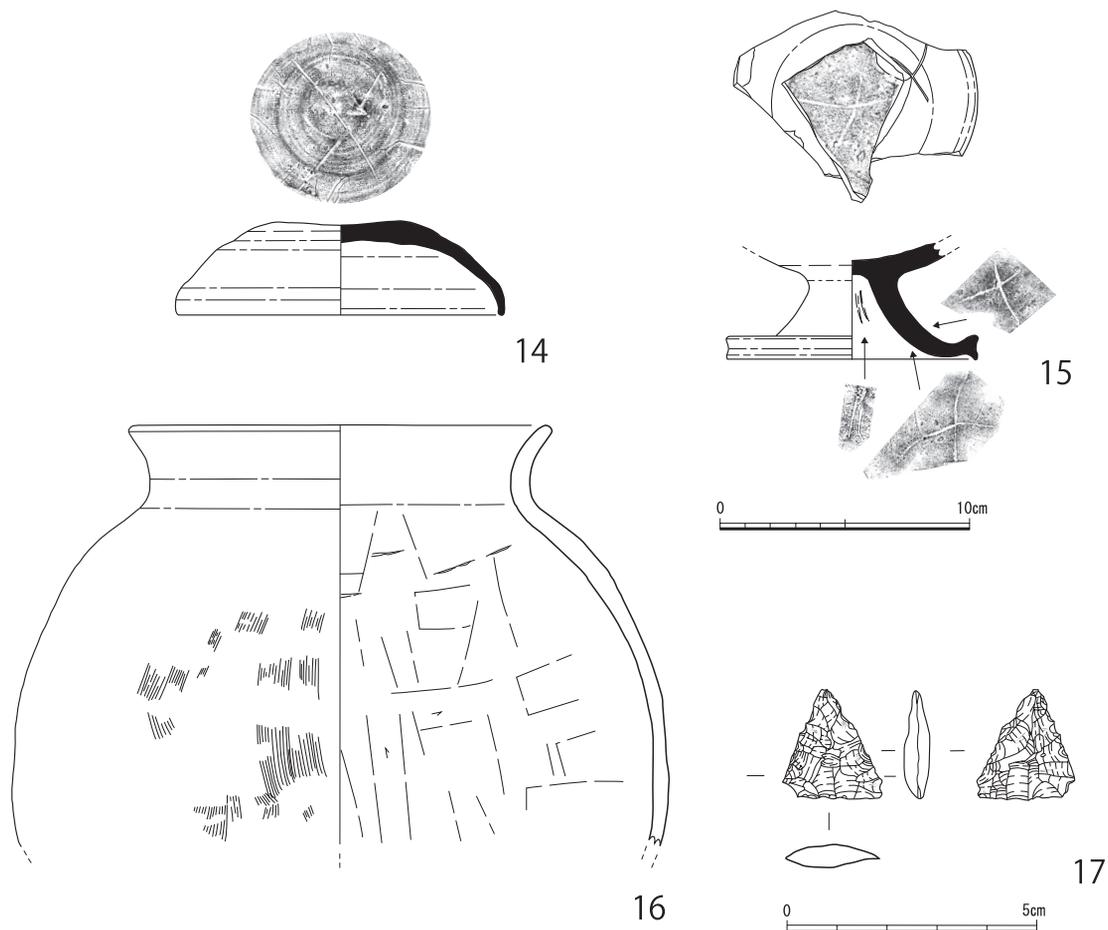
第6図 SD11出土遺物実測図 (13は1/2、他は1/3)

画され、3条の沈線による弧状文が施される。器面はやや劣化しているが底部付近の外面にミガキがみられる。口径11.6cm、胴部最大径21.4cmに復元できる。12は胴部でゆるく屈曲し口縁部にいたる器形の甕である。口縁部と胴部屈曲部に刻目を施す。ハケ調整により胴部屈曲部下位にわずかに段を作り出す。外面はハケメの後粗くナデを施す。

石製品 (13) 13は磨製石斧の刃部片で、一部擦痕が観察できる。頁岩製である。

(2) ピット、包含層出土遺物

P2は第2次調査区の中でも南側で検出されている。略東西方向に長軸をとる楕円形プランのピットである。実測可能な資料はみられないが、弥生土器の小片がわずかに出土している。このP2の7mほど南東にP3が位置する。略円形プランである。実測に耐える資料はないが、器種不明の須



第7図 包含層他出土遺物実測図（17は2/3、他は1/3）

恵器および土師器片が出土している。これらのピット以外にも、包含層などから以下のような遺物が出土している。

出土遺物（第7図、図版6）

須恵器（14・15） 14は包含層出土の須恵器で杯Hの蓋である。口縁部内面にわずかに浅い段状の窪みがみられる。天井部はヘラ切り後回転ヘラケズリ、体部は回転ナデで、一部降灰がみられる。口径は13.0cmに復元でき、器高は3.7cmである。15は短脚高杯の脚部片である。出土地点は不明である。杯部内面、脚部内外面の3箇所ヘラ記号がみられる。残存高は4.6cmで脚端部径は10.0cmに復元できる。

土師器（16） 16は出土地点が不明の土師器甕である。胴部中位で胴が丸く張り、頸部ですぼまり外反する口縁部がつく。口縁部から頸部にかけては器面が荒れているが、胴部外面はタテ方向のハケメが残る。内面はケズリの後ナデで仕上げる。胴部と頸部の境目近くで粘土の継ぎ目がみられる。

石製品（17） 17は包含層から出土した黒曜石製の石鏃である。基部を一部欠損するが、基部が平坦な平基式である。全長2.15cm、最大厚0.4cmである。この他にも図化できなかったが弥生土器・土師器の小片や土師器把手片、黒曜石およびサヌカイト片などが包含層等から出土している。

IV. 第3次調査の成果

1. 調査概要

仲島本間尺遺跡第3次調査地点は大野城市仲畑1丁目443番地に所在し、調査面積は250㎡を測る。諸岡川と御笠川に挟まれた沖積平野に位置し、現地表面の標高は11.5mである。

調査の結果、弥生時代の溝を含む溝3条およびピット15基を検出した。遺構はいずれも削平を受けており残存状態はよくなかった。また、調査区北端から約52mの地点に地山の落ちがあり、洪水によるものと思われる砂と粘土の堆積が確認された。これ以南は同様の状態が続き、遺構・遺物とも検出されなかった。

2. 遺構と遺物

(1) 溝

SD01 (第8図、図版3)

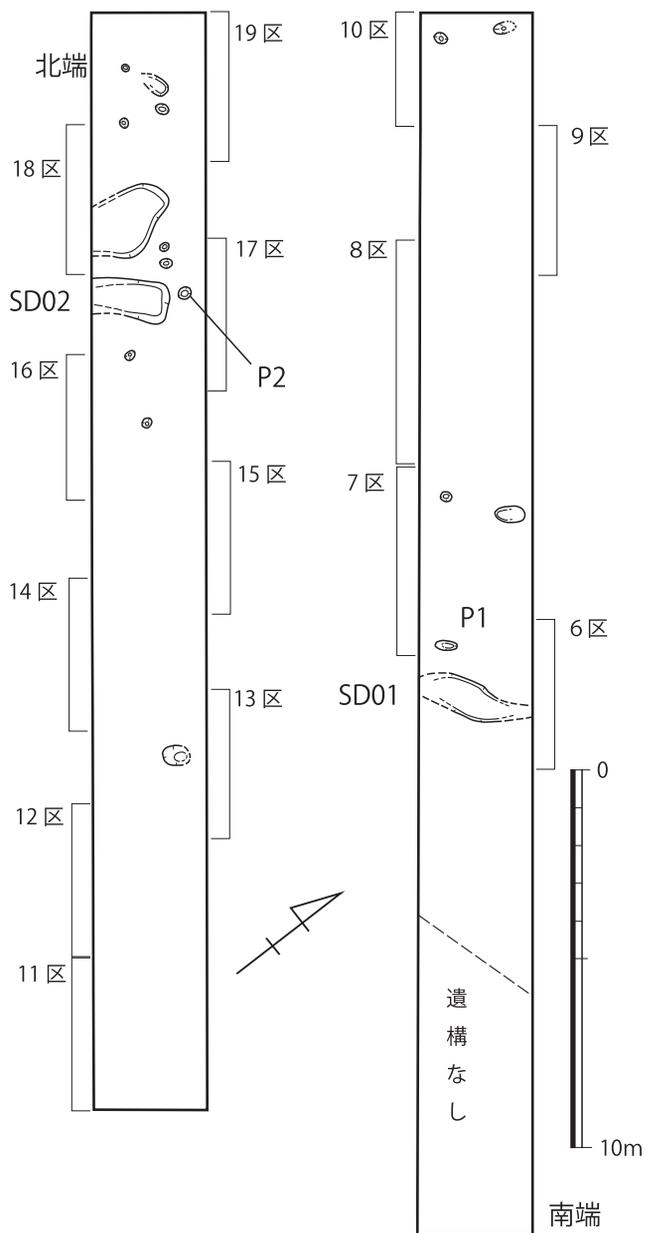
調査区南部で検出された。調査区を横断するように北東—南西方向にのびるが、検出範囲の両端部がやや細くなる。溝底面のレベルから南西方向にやや低くなる。上端幅80～100cm、深さ12～21cmの規模である。調査区内での長さは0.8mである。出土遺物については、図示したものほかに黒曜石片が出土している。

出土遺物 (第9図)

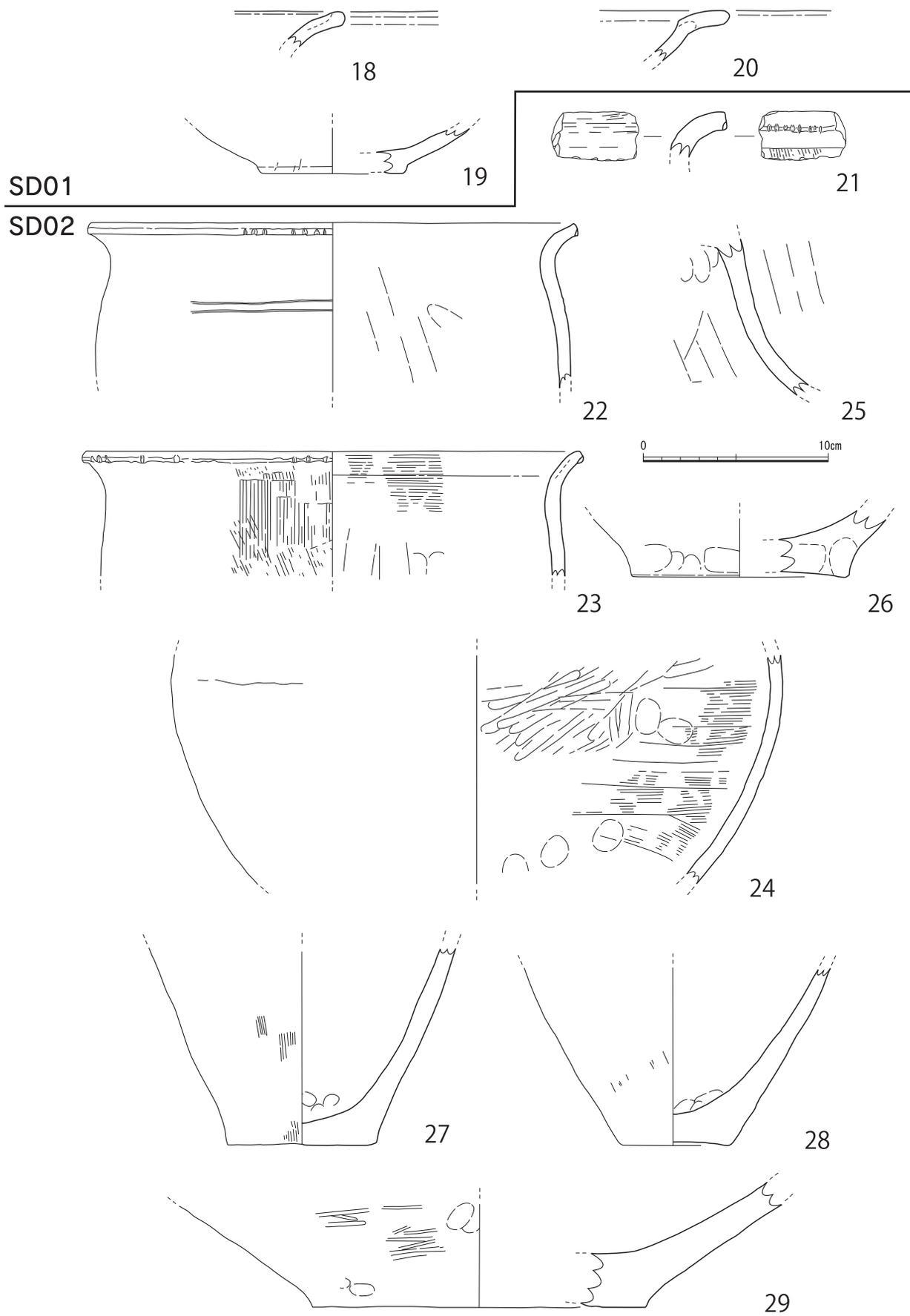
弥生土器 (18～20) 18は壺の口縁部小片で、ゆるく外湾する。粘土貼付けによりわずかに口縁部が肥厚する。内外面ともミガキである。19は壺の底部で、底部と胴部外面の境に段がわずかにつく。20は高杯の口縁部から体部にかけての小片で、浅い杯部に外反する口縁部がつく。

SD02 (第8図、図版4)

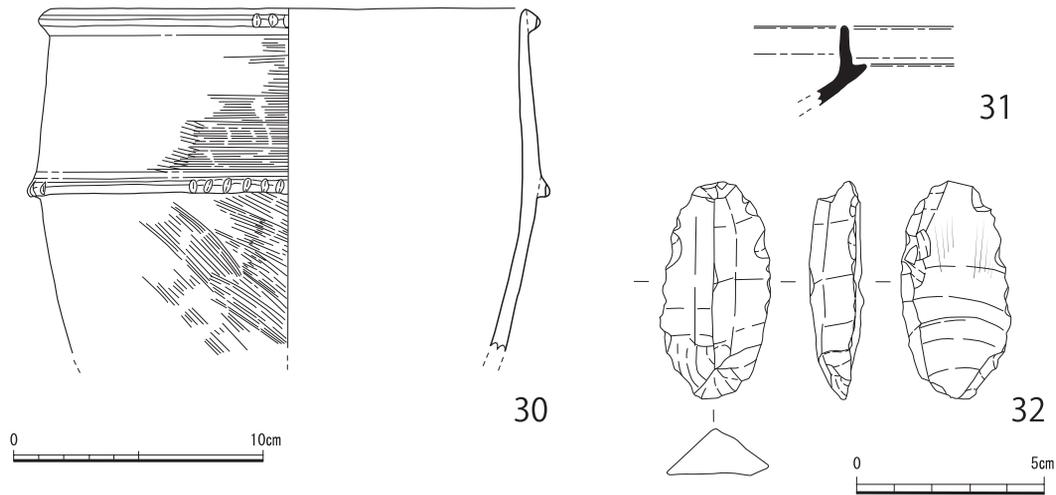
調査区の北端部近くで検出された。略北東—南西方向にのびる溝であるが、遺構北東部は調査区中央東よりの部分で収束する。溝南西部分は調査区外にのびる。



第8図 仲島本間尺遺跡
第3次調査区遺構配置図 (1/200)



第9図 SD01・SD02出土遺物実測図(1/3)



第10図 ピットおよび包含層出土遺物実測図（32は1/2、他は1/3）

遺構底面のレベルから南西方向に若干低くなる。上端幅100～110cm、深さ15cmの規模である。調査区内での長さは1.15mである。

出土遺物（第9図、図版6）

弥生土器（21～29） 21は甕の口縁部片である。外反する口縁端部下端に細かい刻目を密に施す。緻密な胎土で焼成も良好である。22、23も如意形口縁の甕である。22は口縁端部下端に浅い刻目を施し、胴部上半に浅い沈線を2条施す。23も浅い刻目を口縁端部下端に施す。刻目の間隔がややまばらである。24は大型壺の胴部である。胴部最大径は33cmに復元できる。外面は器面の状態がよくないが、内面はハケ状の調整の後、ミガキを行う。25は蓋の破片であろう。頂部近くは内面がゆるく湾曲して若干器壁が厚みを持つ。26は甕の底部である。外面は器面の状態がよくないが、ナデで仕上げているものと思われる。27と28は底部である。27は平底で、外面ハケメ、内面は底部付近に指頭圧痕が残る。また、内面に煤が付着する。28はやや上底気味になる。器面の状態はよくないが外面にわずかに擦痕が残る。29は大型壺の底部で外面に一部ヨコ方向のミガキの痕跡が残る。

（2）ピットおよび包含層

P1はSD01の北西に近接して検出された。長軸を略北東—南西にとる楕円形のピットである。P2は調査区北部、SD02の北側に位置する。略円形のプランである。これらのピットに加え、包含層などからも以下のような遺物が出土している。

出土遺物（第10図、図版6）

弥生土器（30） 30はP1から出土した甕である。胴部最大径部でゆるく屈曲する。口縁部および胴部最大径部に刻目突帯がみられる。

須恵器（31） 31はP2から出土した須恵器杯Hの身である。口縁部は直立し、先端に向かってやや細くなる。

石製品（32） 32は遺構検出時に出土した二次加工剥片である。両側縁に粗い剥離がみられる。安山岩製である。

V. まとめ

仲島本間尺遺跡第2・3次調査では溝を中心とする遺構が複数検出された。出土遺物により時期比定できたものは以下のとおりである。

【第2次調査】SD01：古墳時代後期。SD02：古墳時代後期の可能性が高いが詳細は不明。SD10：弥生時代前期（板付Ⅰ式）。SD11：弥生時代前期（板付Ⅰ式）。

【第3次調査】SD01：弥生時代前期。SD02：弥生時代前期（板付Ⅱ式）。P1：弥生時代前期（板付Ⅰ式）。

以上の分布をみると、古墳時代後期の溝SD01とSD02が第2次調査区北部に位置し、流路はおおよそ北西から南東方向に傾斜する。これらの南東部分でも時期の特定はできないが、複数の溝が検出された。これらの溝のさらに南東部で弥生時代前期の溝SD10・SD11を検出している。調査区南半部が削平されており流路の方向を推定しがたいが、古墳時代後期の溝と異なり北東―南西方向に軸を取る可能性がある。第3次調査区内でも弥生時代前期のピットその他、SD01・SD02が検出されており、これらの溝は第2次調査SD10・SD11と同様の方向に軸を取るものと推測される。

以上のように第2・3次調査範囲内では弥生時代前期と古墳時代後期の遺構分布に相違がみられる。このような遺構分布や推移がどのような空間的な広がりを持っているのかについてはさらなる調査の進展を待つほかない。ただ隣接する井相田遺跡等の調査により、仲島本間尺遺跡の位置する御笠川左岸では河川氾濫により流路が複数形成されていたものと復元されている（吉留2000；本田2021）。仲島本間尺遺跡の西側にも流路跡（第2図）が想定されており、この流路跡を挟み南に仲島遺跡が位置する。今回の調査で検出した弥生時代前期の溝は、仲島遺跡との間のこの流路跡に向かって傾斜している可能性が考えられる。また第3次調査南端部で観察された洪水堆積層が御笠川の氾濫に伴う流路跡の一部の可能性もあろう。

第2・3次調査では上述のように弥生時代前期の古い段階の遺物および遺構が出土している。これまでにも本遺跡発見の端緒となった1983年の水路工事の際に略同時期の土器が出土している（舟山2017）。また、井相田遺跡や仲島遺跡でも前期の遺物が出土しており、仲島遺跡西側の旧流路を挟んだ微高地上に立地する井相田C遺跡第3・4・13次調査では該期の住居跡や土坑が調査されている（中尾2016）。このような近隣遺跡の様相をみると、仲島本間尺遺跡も井相田C遺跡同様旧流路により形成された沖積平野微高地上に弥生時代前期の集団が活動の場を設けた所産といえるであろう。以上から今回の調査は当時の人々の沖積平野部での活動域を考える上で重要な意義をもつものである。

【文献】

中尾祐太2016『井相田C遺跡11 井相田C遺跡第13次調査報告（福岡市埋蔵文化財調査報告書1277集）』福岡市教育委員会

舟山良一2017『花園遺跡1・仲島本間尺遺跡2（大野城市文化財調査報告書第151集）』大野城市教育委員会

本田浩二郎2021「縄文時代3井相田C遺跡／井相田D遺跡」福岡市史編さん室『新修福岡市史 資料編考古2』pp. 86-89.

吉留秀敏2000『井相田C遺跡5－井相田C遺跡第3次発掘調査報告書―（福岡市埋蔵文化財調査報告書第658集）』福岡市教育委員会

仲島本間尺遺跡第2次調査出土遺物観察表

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm・g)	形態・技法・文様の特徴	A: 胎土	B: 焼成	C: 色調	備考
				①口径②器高③底径④高台径 ⑤最大径 ※(復元値)〈残存値〉					
1	須恵器	杯身	SD01	①11.2 ②4.8 受部径13.5	底部外面回転ヘラ削り 底部内面当て具痕あり 他は回転ナデ	A: 3mm以下の白色砂粒・長石・黒色粒・雲母を含む	B: 良好	C: 内外N7/ 灰白色	
2	土師器	甕	SD01	① (14.2) ② (22.8) ⑤26.0	外面ハケメ一部指オサエ 内面ケズリ	A: 4mm以下の砂粒・長石を多く含む	B: 良好	C: 内10YR7/2 にぶい黄褐色 外10YR8/1 灰白色～10YR5/1 褐色～10YR6/3 にぶい黄褐色～10YR3/1 黒褐色	外面黒斑あり
3	土師器	甌	SD01	①24.05 ②21.0 ③8.2	内面ケズリ 外面上位工具ナデ 外面下位ナデ	A: 3mm以下の白色砂粒・長石・褐色粒を含む	B: 良好	C: 内10YR6/2 灰黄褐色 外10YR7/2 にぶい黄褐色～10YR3/1 黒褐色	外面黒斑あり
4	須恵器	甕	SD02	② (14.8)	外面擬格子叩き 内面同心円文当て具痕	A: 微細な白色砂粒・黒色粒を含む	B: 良好	C: 内N6/ 灰色 外N7/ 灰白色～N3/ 暗灰色	外面降灰
5	石製品	石鏃	SD02	残存長1.7 残存幅1.4 最大厚0.3 重さ0.6g					黒曜石製
6	弥生土器	甕	SD10 (P1含む)	① (20.4) ② (24.15) ③7.6	胴部外面下位工具痕あり 頸部外面指オサエ 頸部内面～底部内面指オサエ 口縁部端部刻目あり	A: 2mm以下の白色砂粒・長石・石英・雲母を含む	B: 良好	C: 内7.5YR7/2 にぶい橙色～7.5YR4/1 褐色 外2.5YR6/6 褐色～2.5YR4/1 赤灰色	胴部内外面煤付着
7	弥生土器	甕	SD10 (P1含む)	① (23.7) ② (14.6)	外面ハケメ一部指オサエ 内面ナデ 口縁部端部刻目あり	A: 4mm以下の白色砂粒・長石・角閃石を含む	B: 良好	C: 内5YR7/2 明褐色～5YR5/6 明赤褐色 外5YR4/4 にぶい赤褐色～5YR3/1 黒褐色	口縁部外面・胴部外面下位黒斑あり
8	弥生土器	甕	SD10 (P1含む)	①24.2 ②27.4 ③8.0	外面ハケメ一部指オサエ 口縁部内面ヨコハケ ヨコハケ下に指オサエ 胴部内面ナデ 口縁部端部刻目あり	A: 3mm以下の白色砂粒・長石・石英・雲母を含む	B: 良好	C: 内外7.5YR7/2 明褐色～7.5YR3/1 黒褐色	外面黒斑あり
9	弥生土器	大型壺	SD11埋土中	① (36.8) ② (5.4)	内外面ミガキ	A: 4mm以下の白色砂粒・長石・石英・雲母を含む	B: 良好	C: 内外7.5YR7/2 明褐色～7.5YR6/2 灰褐色	
10	弥生土器	壺	SD11埋土中	① (13.7) ② (9.65)	外面ミガキ 頸部内面ナデ 肩部内面工具ナデ 肩部外面上位1条の沈線が巡る	A: 微細な白色砂粒・雲母を含む	B: 良好	C: 内7.5YR7/2 明褐色 外5YR6/4 にぶい橙色～5YR4/1 褐色	外面一部黒斑あり
11	弥生土器	壺	SD11埋土中	① (11.6) ⑤ (21.4) 頸部径 (8.0)	底部外面ミガキが残る 他はナデ 頸部外面上位1条の沈線が巡る 肩部外面～胴部中に3条と2条の沈線が巡り沈線間に3条の線刻で文様を施す 内面一部指オサエ	A: 微細な白色砂粒・黒色粒・雲母を含む	B: 良好	C: 内10YR8/1 灰白色～10YR5/1 褐色 外10YR8/2 灰白色～10YR3/1 黒褐色	肩部外面黒斑あり
12	弥生土器	甕	SD11埋土中	① (27.7) ② (9.7)	口縁部内面～頸部外面ハケメ 胴部外面ヨコハケ 胴部内面ナデ 口縁部端部・胴部外面に刻目あり	A: 2mm以下の白色砂粒・長石・雲母を含む	B: 良好	C: 内7.5YR6/6 褐色～7.5YR 3/1 黒褐色 外7.5YR6/2 灰褐色～7.5YR3/1 黒褐色	内外面煤付着
13	石製品	磨製石斧	SD11埋土中	残存長4.8 残存幅6.4 最大厚1.8 重さ88.7g	先端部に擦痕あり				頁岩製
14	須恵器	杯蓋	遺物包含層	① (13.0) ②3.7	天井部外面ヘラ切り後回転ヘラ削り 天井部内面不定方向ナデ 他は回転ナデ	A: 2mm以下の白色砂粒・黒色粒・雲母を含む	B: やや不良	C: 内5Y7/1 灰白色 外7.5YR7/4 にぶい橙色～N4/ 灰色～5Y7/1 灰色	外面ヘラ記号あり 一部降灰部分あり
15	須恵器	高杯	出土地不明	② (4.55) 脚部径 (10.0)	杯部内外面調整不明 脚部内外面回転ナデ	A: 2～3mm以下の白色・黒色粒・長石を含む	B: 良好	C: 内N5/ 灰色 外N6/ 灰色	杯部内面ヘラ記号・降灰 脚部外面1ヶ所・脚部内面2ヶ所ヘラ記号あり
16	土師器	甕	出土地不明	① (17.0) ② (16.7) ⑤ (26.2)	胴部外面ハケメ 胴部内面ケズリ後ナデ 口縁部内外面調整不明	A: 2mm以下の白色・褐色砂粒を含む	B: 良好	C: 内7.5YR6/2 灰褐色 外5YR7/6 褐色～7.5YR6/3 にぶい褐色～7.5YR3/1 黒褐色	胴部外面黒斑あり
17	石製品	石鏃	遺物包含層	全長2.15 最大幅2.0 厚さ0.4 重さ1.5g					黒曜石製

仲島本間尺遺跡第3次調査出土遺物観察表

遺物 番号	種 類	器 種	出土地点	法量 (cm・g)	形態・技法・文様の特徴	A：胎土	B：焼成	C：色調	備 考
				①口径②器高③底径④高台径 ⑤最大径 ※(復元値)<残存値>					
18	弥生土器	壺	SD01	② (1.9)	内外面ミガキ	A：2mm以下の白色砂粒・黒色粒を含む	B：良好	C：内外7.5YR7/2 明褐灰色	
19	弥生土器	壺	SD01	② (2.45) ③ (7.6)	胴部外面ナデ 胴部外面下位工具痕残る 他は調整不明	A：2mm以下の白色砂粒・雲母を含む	B：良好	C：内7.5YR4/1 褐灰色 外7.5YR7/4 にぶい橙色	
20	弥生土器	高杯	SD01	② (2.5)	内面ナデ 外面一部ナデが残る	A：2mm以下の白色砂粒・黒色粒・雲母を含む	B：良好	C：内5YR6/4 にぶい橙色 外5YR6/6 橙色	
21	弥生土器	甕	SD02	② (2.4)	口縁部外面下位ハケメ 口縁部内面ヨコハケ後ナデ 口縁部端部刻目あり	A：5mm以下の白色砂粒・雲母を含む	B：良好	C：内7.5YR7/3 にぶい橙色 外7.5YR5/3 にぶい褐色	
22	弥生土器	甕	SD02	① (26.4) ② (8.9)	口縁部内面～体部外面ヨコナデ 胴部内面ナデ 口縁部端部刻目あり 胴部外面中位浅い沈線1条あり	A：3mm以下の長石・石英・雲母を含む	B：良好	C：内7.5YR8/3 浅黄橙色～7.5YR4/2 灰褐色 外10YR8/3 浅黄橙色～10YR5/3 にぶい黄褐色	
23	弥生土器	甕	SD02	① (27.0) ② (6.7)	体部外面ハケメ 口縁部内面～体部内面上位ヨコハケ 体部内面下位指オサエ 口縁部端部刻目あり	A：3mm以下の白色砂粒・雲母を多く含む	B：良好	C：内10YR8/2 灰白色 外10YR5/2 灰黄褐色	
24	弥生土器	壺	SD02	② (12.2) ⑤ (33.0)	外面調整不明 内面ヨコハケ 上位ミガキが残る 内面一部指オサエ	A：3mm以下の白色砂粒・長石・石英・雲母を含む	B：良好	C：内7.5YR8/1 灰白色 外7.5YR7/2 明褐灰色～7.5YR4/1 褐灰色	
25	弥生土器	蓋	SD02	② (8.6)	内外面ナデ 外面一部ミガキが残る	A：2mm以下の白色砂粒・微細な黒色粒・雲母を含む	B：良好	C：内外10YR6/1 褐灰色	
26	弥生土器	甕	SD02	② (3.1) ③ (11.8)	底部外面不定方向ナデ 底部内面ナデ 体部外面工具ナデ一部指オサエ	A：2mm以下の白色砂粒・微細な黒色粒・雲母を含む	B：良好	C：内7.5YR6/2 灰褐色 外10YR8/2 灰白色	
27	弥生土器	甕	SD02	② (10.5) ③ (8.0)	底部外面ナデ 底部内面指オサエ 胴部外面下位ハケメ 胴部内面～胴部外面上位調整不明	A：2mm以下の白色砂粒・長石を含む	B：良好	C：内7.5YR5/1 褐灰色 外7.5YR6/2 灰褐色	内面煤附着
28	弥生土器	壺	SD02	② (9.5) ③ (5.8)	胴部外面下位擦痕あり 底部内面指オサエ 他は調整不明	A：5mm以下の白色砂粒・微細な黒色粒を含む	B：良好	C：内7.5YR8/2 灰白色 外7.5YR7/3 にぶい橙色	
29	弥生土器	大型壺	SD02	② (7.75) ③ (18.0)	胴部外面ミガキ一部指オサエ 内面ナデ？ 他は調整不明	A：2mm以下の長石・石英・角閃石・雲母を含む	B：良好	C：内10YR7/2 にぶい黄褐色 外5YR5/6 明赤褐色～7.5YR5/2灰褐色	
30	弥生土器	甕	P1	① (20.1) ② (13.6) ⑤ (20.9)	胴部外面上位ヨコハケ 胴部外面下位ハケメ 内面調整不明 口縁部端部と胴部中位刻目突帯貼付け	A：3mm以下の長石・石英類を多く含む	B：良好	C：内7.5YR8/1 灰白色～7.5YR4/2 灰褐色 外7.5YR6/2 灰褐色～7.5YR3/2 黒褐色	体部外面下位煤附着
31	須恵器	杯身	P2	② (3.15)	内外面回転ナデ	A：微細な白色砂粒・黒色粒を含む	B：良好	C：内外N6/ 灰色	
32	石製品	二次加工剥片	遺物包含層	長さ5.7 幅2.9 厚さ1.2 重さ23.9g					安山岩製

图 版



(1) 2次調査2区全景



(5) 6区全景



(2) 3区全景 SD01北側



(6) 7区全景 SD02



(3) 4区全景



(7) 8区全景



(4) 5区全景



(8) 9区全景

図版2



(1) 2次調査10区全景



(5) 13B区全景



(2) 11区全景



(6) 14区全景



(3) 12区全景



(7) 15区全景



(4) 13A区全景



(8) 16区全景



(1) 2次調査17区全景 SD09



(5) 20区全景 SD11



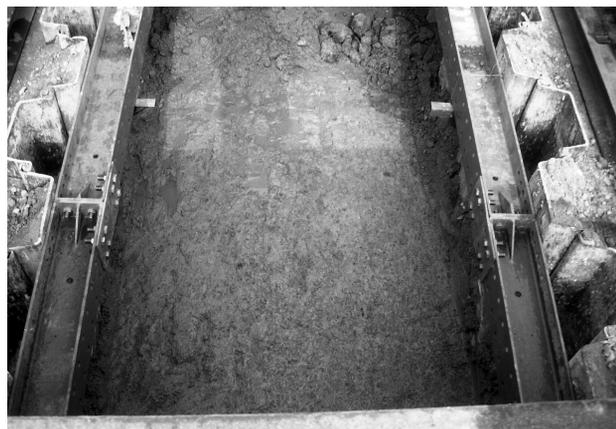
(2) 18区全景



(6) 3次調査4区全景



(3) 19区全景



(7) 5区全景

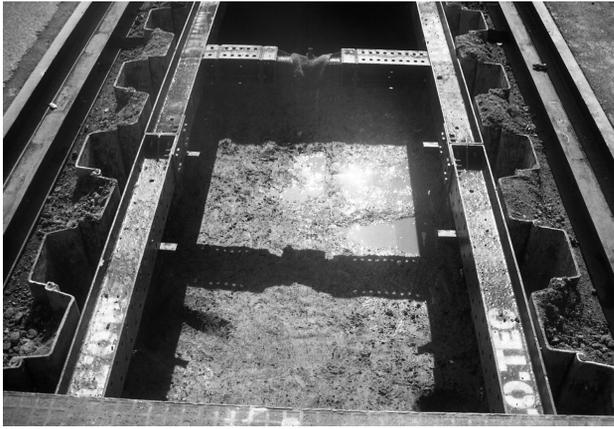


(4) 19区 SD10、P1

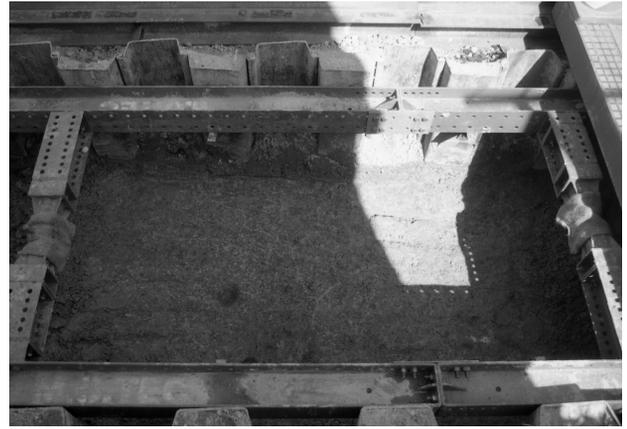


(8) 6区全景 SD01

図版4



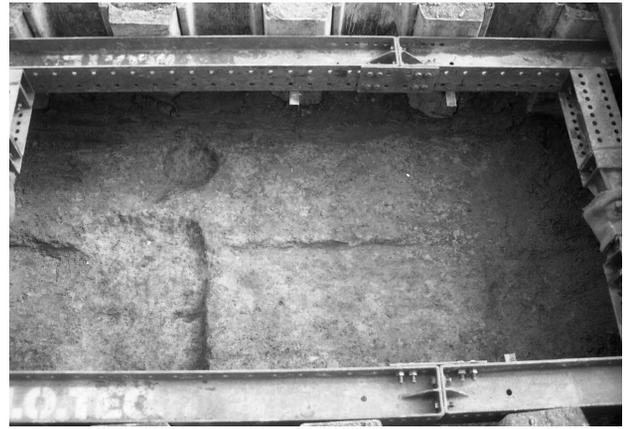
(1) 3次調査7区全景



(5) 16区全景



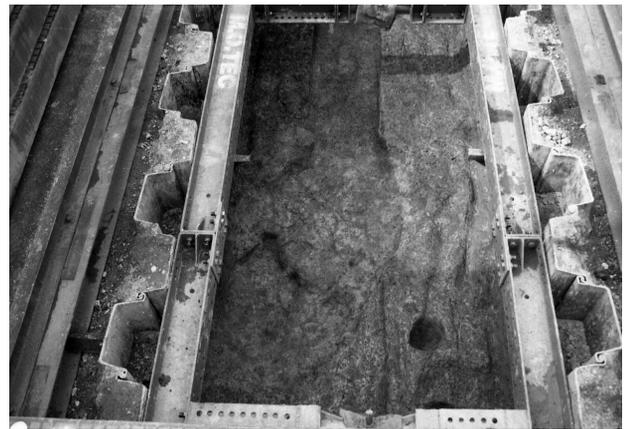
(2) 8区全景



(6) 17区全景 SD02、P2



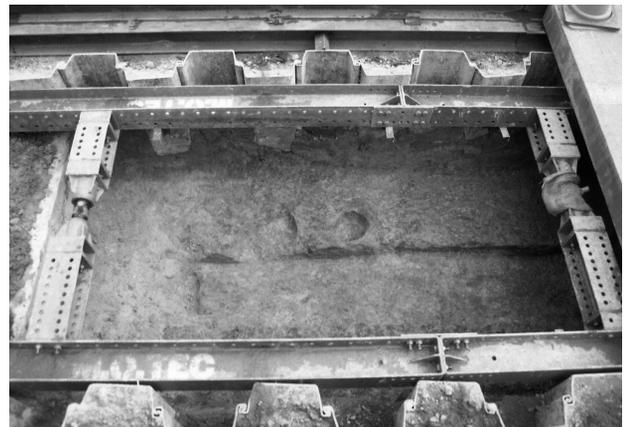
(3) 10区全景



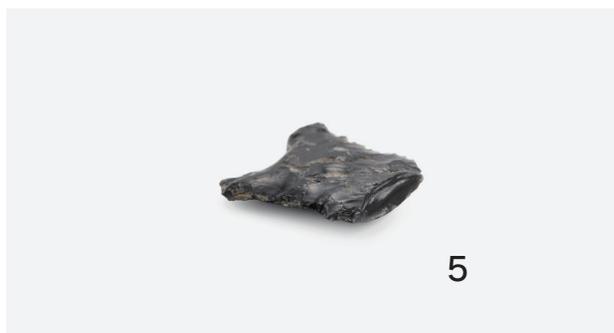
(7) 18区全景



(4) 13区全景



(8) 19区全景



图版6



出土遺物

報告書抄録

ふりがな	なかしまほんげんじゃくいせき							
書名	仲島本間尺遺跡3							
副書名	－第2・3次調査－							
巻次								
シリーズ名	大野城市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第201集							
編著者名	石川健							
編集機関	大野城市教育委員会							
所在地	〒816-8510 福岡県大野城市曙町二丁目2番1号 電話 092 (501) 2211							
発行年月日	2022年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ′ / ″	東経 ° / ′ / ″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかしまほんげんじゃくい 仲島本間尺遺跡 第2次調査	ふくおかけんおおのじょうしなかはた 福岡県大野城市仲畑 1丁目443番地			33° 33′ 35″	130° 27′ 52″	2010.2.12 ～ 2011.3.12	290㎡	下水道工事
なかしまほんげんじゃくい 仲島本間尺遺跡 第3次調査	ふくおかけんおおのじょうしなかはた 福岡県大野城市仲畑 1丁目443番地			33° 33′ 34″	130° 27′ 54″	2011.3.1 ～ 2011.3.15	250㎡	下水道工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
仲島本間尺遺跡第2次調査	集落等	弥生時代・古墳時代	溝・ピット	弥生土器・須恵器・土師器		溝が多く検出され、遺跡の性格についての検討が必要である。		
仲島本間尺遺跡第3次調査	集落等	弥生時代・古墳時代	溝・ピット	弥生土器・須恵器・土師器		溝・ピットが検出されており遺跡の性格についての検討が必要である。		
要約	仲島本間尺遺跡第2次調査では溝が多数検出された。また、第3次調査でも溝に加えピットが検出されている。出土遺物は弥生時代前期の土器を主とし、少量の須恵器および土師器、石器である。今回の調査区周辺ではこれまで試掘調査を含め多数の溝が検出されている。出土遺物から時代は弥生時代前期および古墳時代後期の二時期と考えられる。御笠川左岸の沖積平野における河川氾濫によって形成された微高地上に位置する遺跡の性格について今後の検討が必要である。							

大野城市文化財調査報告書 第201集

仲島本間尺遺跡3

令和4年3月31日

発行 大野城市教育委員会

〒816-8510 福岡県大野城市曙町2-2-1

印刷 山口印刷株式会社

〒819-0013 福岡県福岡市西区愛宕浜2丁目2-1 705号